

# 「やっとな助けが」

## 洪水被害のタイ

### AMDA 支援継続



洪水に見舞われたタイ北部で、救援物資を運ぶスタッフら（AMDA提供）

岡山市の国際医療NGO「AMDA」が、洪水被害が長引くタイへの支援を続けている。活動を指揮する調整員の大政朋子さんによると、現地に薬などを届けると「やっとな助けが来た」と涙を流して喜ぶ人もいたという。

タイ北部で被害が広がっていた10月14日、保健師と調整員の2人を派遣。その後、医師1人も加わった。タイの救急医学会の医師や消防士ら18人とともに、北部の村や保健所を回って薬や浄水器を届けた。第1陣は22日まで活動した。第2陣は10月31日から今月8日まで医師1人、看護師2人を派遣した。洪水は首都バンコクまで広がり、排泄物の悪臭が漂っていたという。

皮膚のただれや慢性疾患の悪化が増えており、避難所で塗り薬を配ったり、薬の使用法の指導をしたりした。赤ちゃん用のミルクも配った。

現地の聞き取り調査ではロープやポット、ライフジャケット、ポータブルトイレのニーズが高かった。250着のライフジャケットを集め、現地へ送った。

水がひくと、コレラや赤痢が流行する可能性もあるという。月内に予定する第3陣では、患者搬送に使えるポットも用意したいという。

大政さんは「東日本大震災ではタイの医師や看護師がAMDAとともに岩手県大槌町で支援にあたってく

れた。今度はこちらが役立ちたい」と話している。

◇

この記事は、朝日新聞岡山総局で職場体験した岡山

市立福田中の渡辺祥実さん、横山璃子さん、林怜奈さん、同市立光南台の中の大中人さん、庄司晃さんが取材、執筆しました。